

秋田県内のアニメ制作スタジオの動向

2020年4月、アニメ制作スタジオ「株式会社つむぎ秋田アニメLab」、「株式会社GAKIproAstudio」が秋田県に拠点を設置した。スタジオ設立の経緯をみると、つむぎ秋田アニメLabは、本県出身者がアニメ専門学校の同級生である社長に声をかけたことがきっかけとなった。一方のGAKIproAstudioは、本県出身の社長が、長年、故郷へ貢献したいという思いを抱いていた。両社とも県出身者の郷土愛がご縁を引き寄せたと言えるが、設立の決め手は、本県を含む東北には競合他社が少ないこと、秋田公立美術大学があることなど、安定的な人材の確保を見込める点を挙げた。

業界ではフリーランスが多く労働環境の厳しさから人材不足が深刻化するなか、両社は、首都圏と比べコストを低く抑えられるメリットを活かし、従業員を正規雇用して業務展開を図っている。

1 全国のアニメ業界の動向

一般社団法人日本動画協会「アニメ産業レポート2020」によると、アニメの製作・制作（※1）を行う企業の売上に基じた業界の市場規模は拡大傾向にあり、2019年は3,017億円となった。また、アニメ制作を手掛ける企業数（※2）は、2016年で622社を数える。内訳では、製作会社からの発注により制作全般を手掛ける元請けが141社（22.7%）、下請けとして作品の素材制作を担う「制作スタジオ」は481社（77.3%）となっており、全体の約9割が首都圏に集積している。

業界では、主にフリーランスのアニメーター（※3）が制作を担っている。長時間労働、低賃金といった労働環境の厳しさから新人の離職率が高く人材の不足が課題となっているが、人材の育成・確保にかかる負担が重く、課題解決への取り組みは遅れている。

近年は、デジタル化の進行にともない、地方に制作スタジオを分散する動きが進んでいる。制作スタジオにとって、首都圏と比べ家賃などのコストを低く抑えられること、誘致企業として助成金

や補助金制度を活用できることが、地方の魅力となっている。受け入れる地方側も、若年層の流出防止に繋がることを期待し、スタジオの設立を歓迎している。

（※1）アニメに関し、「製作」は資金調達・宣伝・配給などを行い商品として販売するための作品を作ること、「制作」は実際に描画し映像となる作品を作ることの意

（※2）企画・制作、原画、動画、CG、背景、撮影、編集など制作工程に関わる企業数。ただし、音響を除く

（※3）原画、動画を描く人

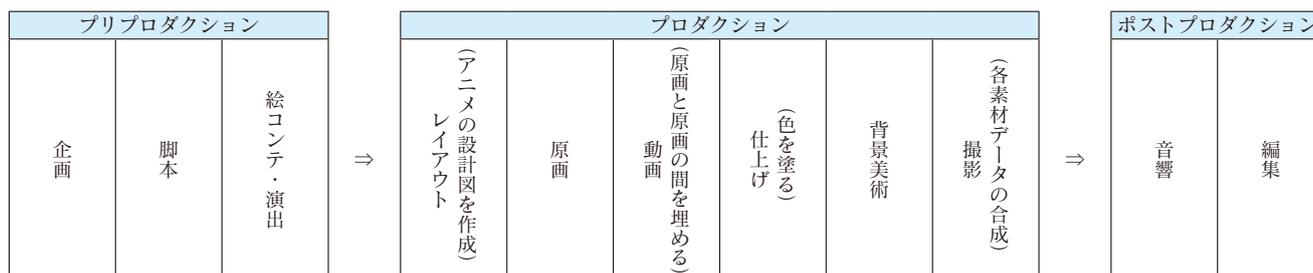
2 秋田県内に制作スタジオ2社が拠点設置

秋田県では、2020年4月、制作スタジオ2社が秋田市に拠点を設けた。両社とも、高い技術力を保つため、地方のメリットを活かして従業員全員を正規雇用している。

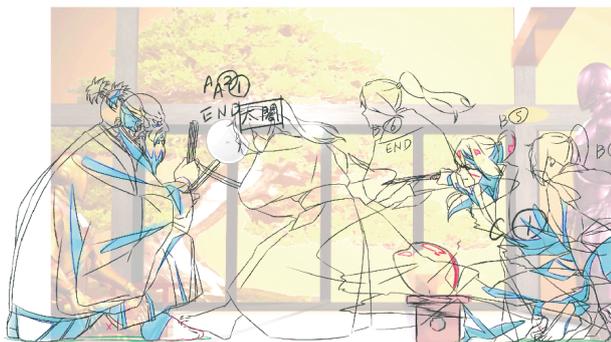
（1）株式会社つむぎ秋田アニメLab

「株式会社つむぎ秋田アニメLab」は、社長の櫻井司氏が2017年に東京都で起業した後、埼玉県川口市への移転を経て、2020年に秋田市へ本社を移した。秋田スタジオと川口スタジオの双方

図表 アニメ制作の主な工程



資料：つむぎ秋田アニメLabのアドバイスにより当研究所作成

つむぎ秋田アニメLabの自社制作作品
「龍殺ノ狂骨」に使用した原画

で、自社作品の制作に加え、元請けから受注し、アニメの元となる「原画」、動きを持たせるよう原画と原画の間に描く「動画」、彩色する「仕上げ」を手掛けている(図表)。なお、30分のアニメ作品には、原画は500～1,000枚、動画は3,000枚ほどが必要だと言われている。

全従業員38人のうち、秋田スタジオでは26人が勤務し、平均年齢は26.6歳で、男女比はおおむね半々となっている。26人のうち、7人が秋田スタジオの設立を機に首都圏から本県に移住した。移住した従業員は、「県内の家賃や物価の低さ、通勤時間の短縮化などを理由に生活に余裕が生まれ、公私とも充実した日々を過ごしている」と話す。秋田スタジオ設立後に採用となった従業員は19人で、このうち本県出身者が15人を占める。2020年度に川口スタジオが緊急事態宣言によりテレワークとなり新入社員の指導に遅れが生じたため、2021年度は秋田スタジオでのみ採

用を行った。秋田スタジオのマネージャーである桑原智也氏は、「リスク分散を図るため本県にスタジオを設立した効果が早速表れた」と語る。

同社は、アニメーターの育成にも注力し、2020年度に文化庁から人材育成事業の受託制作団体に選定された。また、アニメーターを志す人を対象に、秋田スタジオ内で「アニメーター予備校」と称した私塾を開いている。2021年7月現在、9人が在籍し、2年以内に同社で即戦力として活躍できるレベルに到達することを目標に、描画技術の習得に励んでいる。同社は、私塾の規模を拡大する計画を立てており、今後は卒業生を中心に採用を行い、秋田スタジオの設立から10年後となる2030年には従業員数300人規模への成長を目標としている。

ほかに、県内他業種との連携に積極的に取り組んでおり、作品制作の依頼を受け、現在、企業のコマーシャル、自治体による新たな産業振興策の



つむぎ秋田アニメLabが自社ホームページに掲載している秋田市のPR画像



PR用アニメなどの制作作業を進めている。また、将来的には県内事業所と連携し、アニメをツールとした本県の観光振興に取り組む構想を練っている。桑原マネージャーは、「制作スタジオはこれまで東京一極集中であったため、地域密着型のスタジオや作品は少ない。当社は、県内の企業、自治体、観光地などが多く登場するオリジナル作品を制作し、本県の魅力を世界の幅広い年代に向けて発信したい」と意欲を語る。

(2) 株式会社GAKIproAstudio

「株式会社GAKIproAstudio」は、東京都にある「代々木アート・プランニング有限会社石垣プロダクション」（社長・石垣努氏）の関連会社として設立された。石垣プロダクション（以下、「石垣プロ」）と同様に、テレビ・劇場版アニメ作品の背景画を専門に制作している。30分のアニメ作品に必要な背景画の枚数は約300枚で、10人がおよそ1週間かけて制作する。同社は、2021年4月に石垣プロから受託した仕事でスタートを切った後、同年7月からは制作会社より直接依頼を受け、NHKで4～8月に全国放送されているアニメ「不滅のあなたへ」を手掛けている。

従業員は、石垣プロからの出向者2人を含む13人となっている。背景画を描く10人は全員が



© 大今良時・講談社/NHK・NEP

アニメ「不滅のあなたへ」で
GAKIproAstudioが手掛けた背景画

秋田公立美術大学（以下、「秋美」）の卒業生で、このうち4人は2019年までに石垣プロに就職し、GAKIproAstudioのけん引役となるよう技術を磨いてきた。同社は今後も秋美の卒業生の採用に期待を寄せ、インターンシップの受入れを行っている。一方の秋美事務局学生課も、「同社の設立により、卒業後も本県に住み、絵を描く基礎を学んだ経験を活かして働きたいという学生の選択肢が広がった」としている。なお、秋美卒業生10人のうち、本県出身者は4人で、残る6人は大学進学を機に北海道や東北他県から本県に移住した。

また、10人中、女性が9人を占める。業界全体ではデジタル化の進行やリモートワークの普及による影響もあり結婚・出産などライフイベントにともなう柔軟な働き方を選択できることから女性の割合が高まっており、同社も女性が働きやすい環境の整備を目指す。取締役の澁谷幸弘氏は、「画力を高めキャリアアップするには、経験と時間を要する。従業員にはワーク・ライフ・バランスの実現に取り組み、長く勤務し実力を磨いてほしい」と語る。

同社は設立から日が浅く、従業員の成長が最優先事項となっている。将来的には、現状の業務の規模拡大のほか、企業のイメージアップや商品PRなどの画像、商品デザイン、ポスター制作を通じた県内事業所との連携も視野に入れている。

3 若年層の流出防止などへの効果を期待

両スタジオでは、20代を中心とする従業員が生き生きと働く姿が印象に残った。

若年層に人気の高いクリエイティブ産業が秋田県に根付くことで、若年層の県外流出防止だけでなく、他業種との連携を通じ県内経済の活性化にも繋がるものと見込まれ、両スタジオの今後が一層注目される。

（相沢 陽子）